

資料提供	
平成25年10月31日	
担当 (担当者)	水産試験場 (志村・山田)
電話	0859-45-4500

## 平成25年漁期 ズワイガニ漁の見通し

### 解禁直後（鳥取沖・隠岐北西沖・出雲沖）

松葉がに…小～中型個体を主体であるが、大型個体の漁獲もやや見込まれ前年並みとなる。  
若松葉…前年並みとなる。  
親がに（雌）…前年並み又はやや下回る。  
漁期全般：漁獲量は平年並みとなる。

### 解禁直後の見通しの根拠となった情報

**第一鳥取丸による調査結果** 10月2日～29日にかけて、山陰沖の水深181m～446mの海域において、合計27の調査点で着底トロールによる漁期前調査を行いました（図1）。調査海域内における漁獲対象となるズワイガニの推定資源尾数（単位＝万尾）は表1のようになりました。

表1 調査海域におけるズワイガニの資源尾数（単位＝万尾）

区分	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	前年比
松葉がに（甲幅9.5cm以上）	4	11	28	28	39	63	162%
若松葉（甲幅10.5cm以上）	166	152	179	263	176	189	108%
親がに（くろこ）	191	184	272	272	249	211	85%

**松葉がに**：隠岐北西沖の資源状況が良く（表1、図2左）、甲幅10～12cm台の小～中型個体を主体に13cm以上の大型個体も漁獲されました（図3）。

**若松葉**：全体では微増しているものの、これまで主漁場であった出雲沖では横ばい傾向にあり（図2中央）、甲幅10～12cm台の小～中型個体が主体となりました（図3）。

**親がに**：隠岐北西沖を中心に前年よりも減少しており（図2右）、甲幅7～8cm台の小～中型個体が主体となりました（図3）。

### 漁期全般の見通しの根拠となった情報

- (1) 鳥取県の沖合底びき漁業による漁獲量の推移（図4） 本県のズワイガニ漁獲量は2004年（2,187トン）まで増加しましたが、その後は減少～横ばいで推移していません。2012年の漁獲量は松葉がに334トン、若松葉209トン、親がに688トン、合計1,101トンで、前年（1,171トン）及び平年（過去年平均1,189トン）を下回りました。
- (2) 水研調査（調査月：5-6月）：（独）水産総合研究センターは、日本海A海域（富山県以西）における2013年のズワイガニ資源重量について2012年よりやや多く推定しているものの過去5年で見ると平年並みと判断しています（図5-6）。
- (3) まとめ 第一鳥取丸の調査結果から調査対象海域では小中型個体を主体に近年少なかった大型個体の漁獲も多少見込まれることが予想されます。しかしながら、長期的な漁獲量の変動と広域の試験調査結果を考慮すると大幅な資源回復は期待できないこと、また若松葉と親がにで漁期が短縮されることから、漁期全般の漁獲量（重量換算値）は平年並みとなる可能性があります。

その他の情報：資源回復のために未成体ガニが多量に入網する海域での操業自粛や再放流に努め、ズワイガニ漁期外には改良網を使用しましょう。

ホームページ 本報告は水産試験場ホームページに掲載しています。トップページの「調査研究」からアクセスできます。<http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=101110>

図1 試験操業位置（図中黒丸が操業位置）

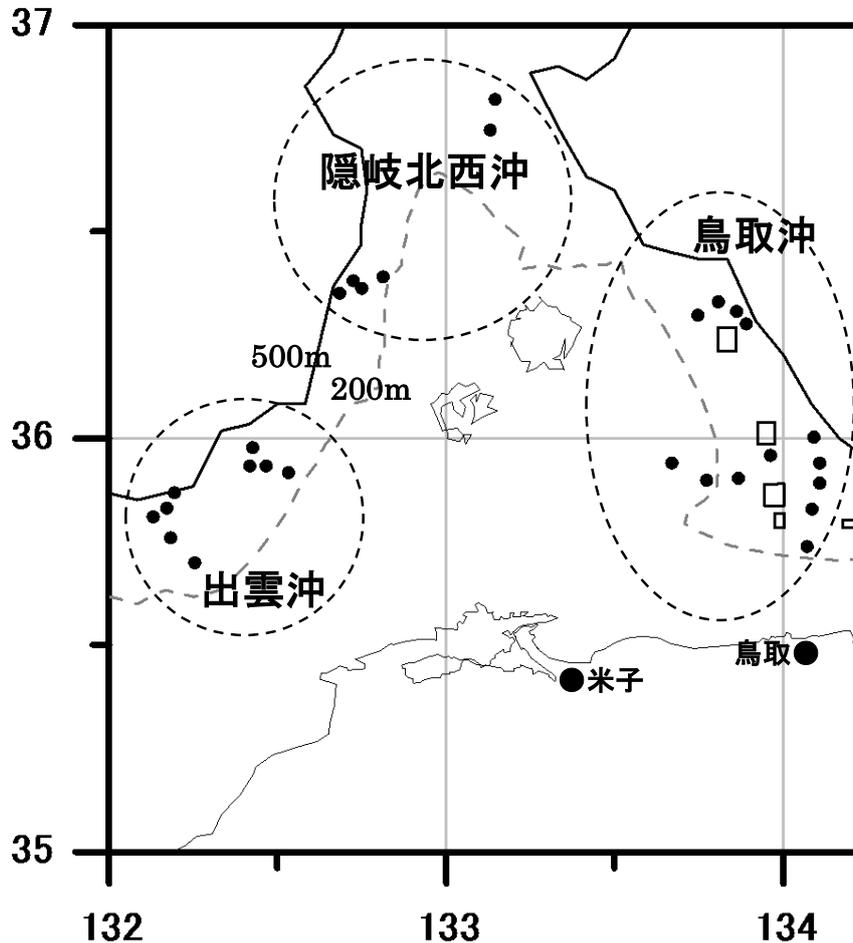


図2 年別海域別の資源尾数

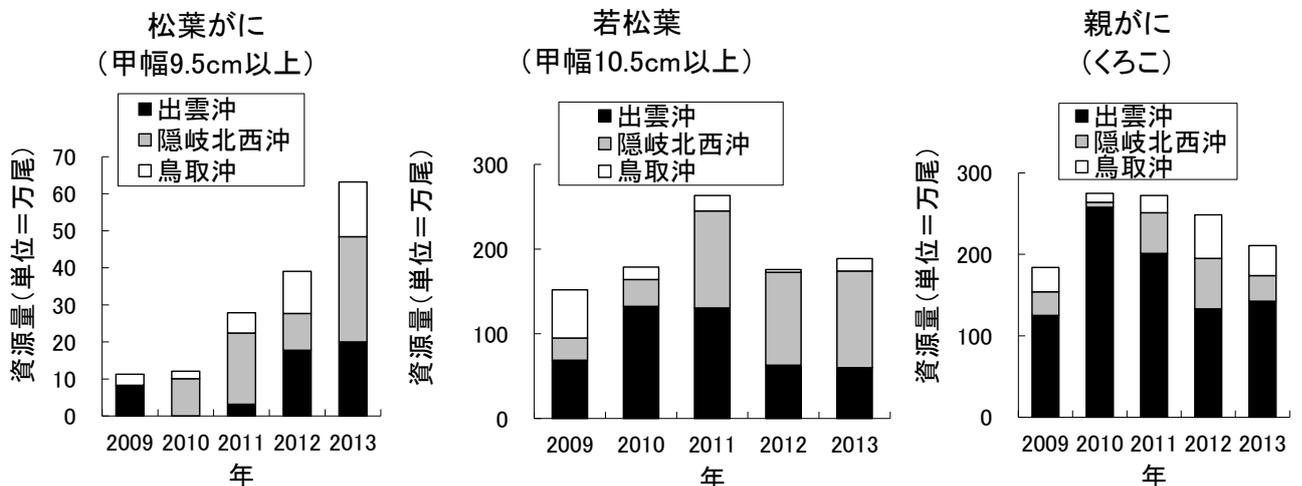


図3 トロール網による調査海域全域におけるズワイガニ甲幅組成の推移 (2009-2013年)  
資源尾数の単位は万尾

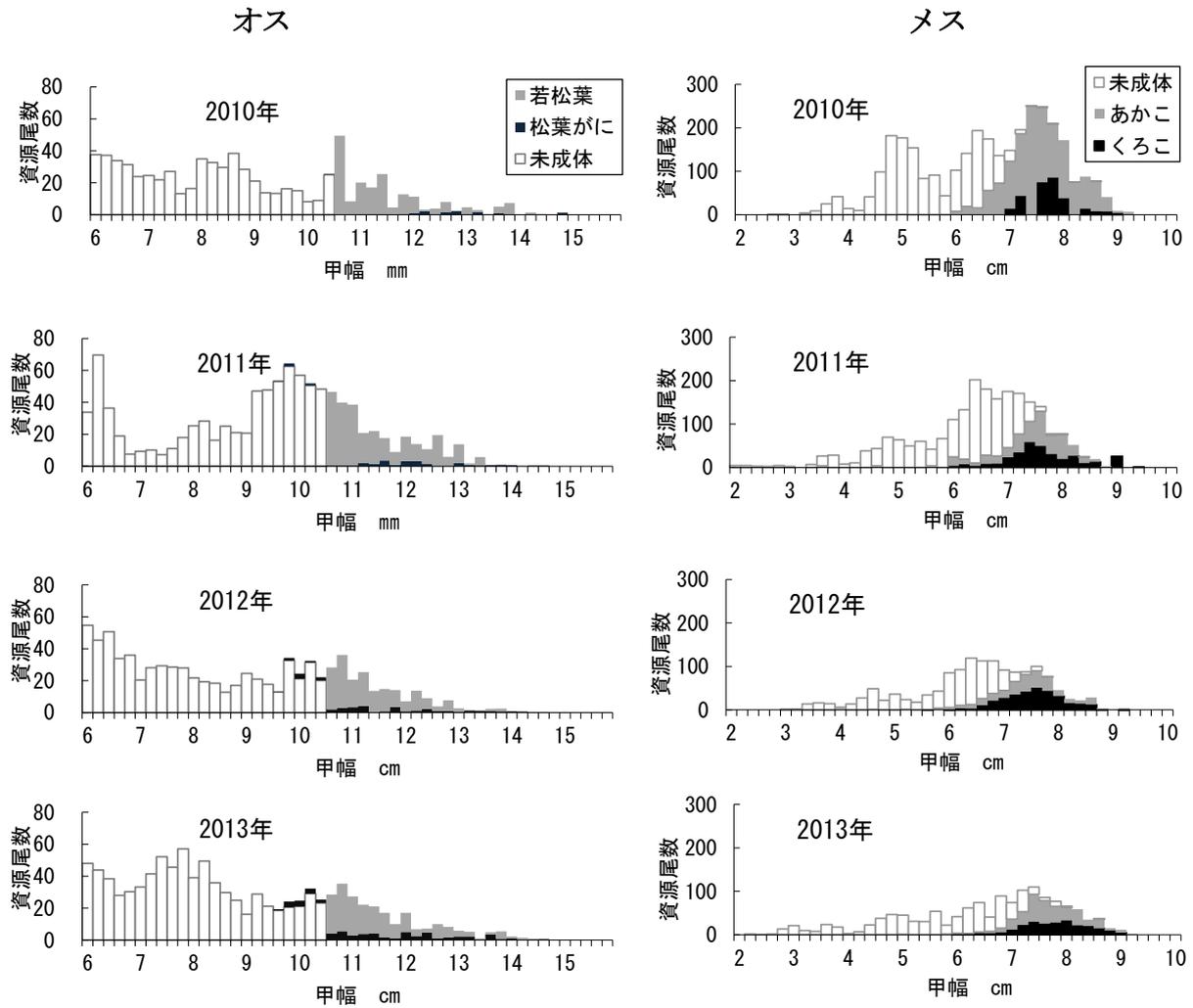


図4 鳥取県におけるズワイガニの漁獲量 (漁期年)

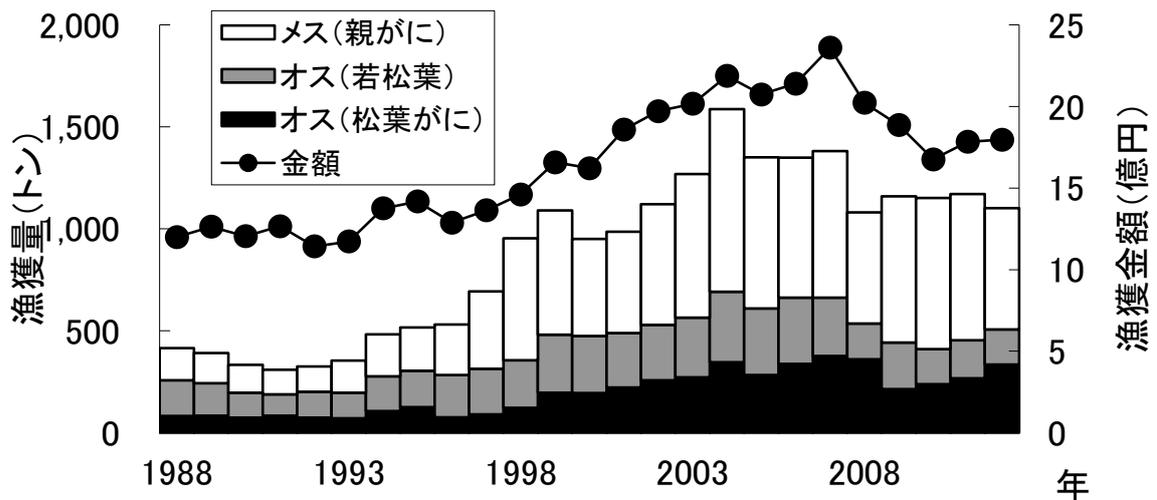


図5 A海域（富山県以西）におけるズワイガニ雄の資源量  
水産総合研究センター 日本海区水産研究所資料

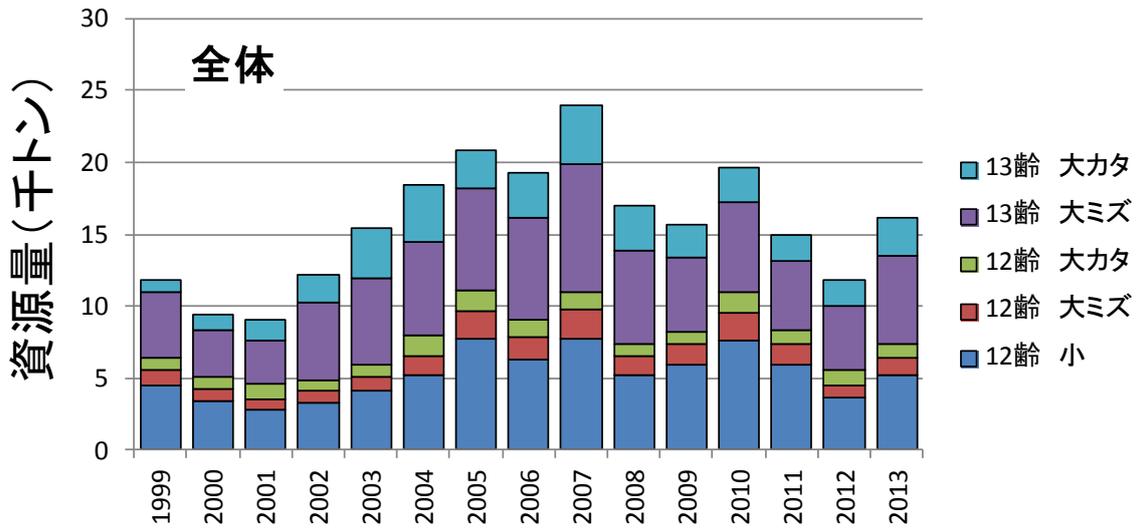


図6 A海域（富山県以西）におけるズワイガニ雌の資源量  
水産総合研究センター 日本海区水産研究所資料

